**初期 ｸﾗｯﾄﾞ ﾀﾞﾌﾞﾙﾊﾝｸﾞ窓（CDH）の、ﾊﾞﾗﾝｻｰ、ｸﾗｯﾁの交換方法**

[**cdhjamblinerrelease**](#_top)

**警告!!　この１連の作業には、危険が伴います。　全ての作業は、作業者の責任で行って**

**ください。　　　警告!!　　防護用ﾒｶﾞﾈを必ず着用して下さい。**

**以下の説明書を参考に、安全を最優先で、作業を行ってください。**

○ ﾊﾞﾗﾝｻｰ（左右の縦枠へ内臓されている、ｻｯｼ懸垂装置）の破損、交換時

○ ｸﾗｯﾁ　(ｻｯｼ下辺の左右に接続する、懸垂装置の接続部材)の破損、交換時

工具　★ ﾏｲﾅｽ ﾄﾞﾗｲﾊﾞｰ ★ 平刃 刃先巾50ﾐﾘ程度のｽｸﾚｰﾊﾟｰ ★ ｼﾘｺﾝ ｽﾌﾟﾚｰ ★ ｶｯﾀｰ ﾅｲﾌ

　　　★ ﾃｯｼｭ ﾍﾟｰﾊﾟｰ ★ 手袋 ★ ﾊﾝﾏｰ ★ 雑巾ｘ2 　　★ 作業用の薄手の綿手袋

★ 防護用ﾒｶﾞﾈ 　　★ ﾄﾞﾗｲﾔｰ（ｼﾞｬﾑﾗｲﾅｰ変形時の整形用）

用意する物　　　●　窓下端から15ｾﾝﾁほどの高さに最上段ある、安定した脚立

●　手製の四角の**つっぱり棒**（ｶﾞﾗｽ障子の室内側木枠横幅+15ﾐﾘ程の長さ）

　　　※つっぱり棒の概寸（市販木材加工）断面長方形20ﾐﾘｘ45ﾐﾘｘL

●　ｶﾞﾗｽ障子の、上辺木枠防護のための、雑巾2枚

**1.　ｻｯｼの取り外し**

①　**下方のｶﾞﾗｽ障子(ｻｯｼ)**を下から50～100ﾐﾘ程、開けます。

次いで、このｶﾞﾗｽ障子の左右の縦枠に装着されている、弾性の塩ビ樹脂ｶﾊﾞｰ

（**ｼﾞｬﾑﾗｲﾅｰ**）の、**ｻｯｼ上辺木枠**から30ﾐﾘほど上の位置へ、用意した長さの

**つっぱり棒**を入れて**水平につっぱらせ**ます。

左右縦枠に付随する塩ビ樹脂の弾力枠が、つっぱり棒に押されて凹みます。

この状態から、ｶﾞﾗｽ障子上辺に両手を掛け、室内側へ引き倒すように引くと、ｶﾞﾗｽ障子が、その下辺を軸に室内側へ倒れ、水平となります。

　　　②　画像1のように、水平にしたｻｯｼの左右の中央部分を両手で

持ち、いずれか“片方を先”に、ｼﾞｬﾑﾗｲﾅｰの**縦溝**に沿って、

**垂直に持ち上げること**で、ｼﾞｬﾑﾗｲﾅｰに内蔵されている**ｸﾗｯﾁ**

から、ｻｯｼの**ﾋﾞﾎﾞｯﾄ ﾋﾟﾝ**を外します。

このようにして、ｻｯｼを取り外すことができます。

（　画像　1　参照　）

**注意 !!** 　ｻｯｼは意外と重いので、しっかりと保持し、確実に**片方**を

**垂直に上方へ持ち上げ**て、ｻｯｼを外して下さい。

垂直方向でなく、**手前にこね上げる**と、**ｼﾞｬﾑﾗｲﾅｰ**を破損

させます。 　　画像　1

　　　③　同様の方法で**上部ｻｯｼ**を外します。

　　　　　上部ｻｯｼを、作業のし易い位置まで下げます。

　　　　　次いで、**先のつっぱり棒**をそのｻｯｼ上辺の上へ入れて水平につっぱらせます。

　　　　　上部ｻｯｼの上辺木枠を傾け、水平に倒します。

　　　　　下方ｻｯｼの取り外しと同様な手順で、ｻｯｼの左右いずれか片方を先に、ｼﾞｬﾑﾗｲﾅｰの溝に沿って**垂直に持ち上げ**、上部ｻｯｼを取り外します。

**2.　ｼﾞｬﾑﾗｲﾅｰ に内蔵された**※**ｸﾗｯﾁ の点検**

（ｻｯｼ懸垂装置で、ｻｯｼ取り外し時には、自動的にｼﾞｬﾑﾗｲﾅｰの溝にﾛｯｸされる機構）

①　ｻｯｼを2枚とも外したら、ｼﾞｬﾑﾗｲﾅｰに内蔵されたｸﾗｯﾁに、不具合がないか

確かめます。

注意!!　　窓の開閉が困難、開閉が重い、その他が不調であった場合は、この

状態で点検します。

②　ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ製のｼﾞｬﾑﾗｲﾅｰの扱いが不備で、その縦溝の突起加工部分が曲がったり

変形していると、摩擦増大でｻｯｼの上下動が重くなります。

　　　　　★　軽微な変形の場合は、ﾍﾔｰ ﾄﾞﾗｲﾔｰでこの部分を温め、温かいうちに指先で

軽く変形を整形する事で、簡単に機能が回復します。

　　　　　★　部分的に折損変形した場合でもこの修復が有効です。

（ｻｯｼ上げ下げ時の障害を取り除く事で、解決します。）

　　　③　左右ｼﾞｬﾑﾗｲﾅｰの表面は、ｻｯｼの側面とで摩擦を生じます。　この時点で、上下

ｻｯｼとの接触面へｼﾘｺﾝｽﾌﾟﾚｰを吹きかけておくと、再取付け時には、見違える

ほど 開閉が軽くなります。

更にｸﾗｯﾁが上下する溝にもｼﾘｺﾝｽﾌﾟﾚｰを吹きかけ、動きを軽くします。

**ﾋﾝﾄ !!　豆知識**

a ﾏｰｳﾞｨﾝ社のﾀﾞﾌﾞﾙﾊﾝｸﾞ窓では、窓左右縦枠のｼﾞｬﾑﾗｲﾅｰ上部に内蔵された、ｺｲﾙ

ｽﾌﾟﾘﾝｸﾞにより、常に引き上げ力が働き、上下ｻｯｼの引き上げを助けます。

 b　これは又、窓ｻｯｼの自然落下を防ぎますが、ｻｯｼの 引き下げ時には、これが

若干の抵抗力としても働きます。

　　　　　c ｺｲﾙ ｽﾌﾟﾘﾝｸﾞが内蔵された、左右の弾力のあるｼﾞｬﾑﾗｲﾅｰは、上下するｻｯｼとの

適度な摩擦力で、ｺｲﾙ ｽﾌﾟﾘﾝｸﾞの引き上げ力と均衡するため、上下のｻｯｼは

無段階に開度を決められ、又、ｼﾞｬﾑﾗｲﾅｰの弾力はｻｯｼとの**気密**も**保持**します。

　　　　　d　窓ｻｯｼは、ｺｲﾙ ｽﾌﾟﾘﾝｸﾞに**直接**懸垂されず、巧妙な**複滑車**を通して**懸垂**され、

ｽﾌﾟﾘﾝｸﾞのわずかな**伸長**で、安定した**引き上げ力**と**長いｽﾄﾛｰｸ**を、**実現**します。

**※**　窓ｻｯｼの大きさによって、ｺｲﾙ ｽﾌﾟﾘﾝｸﾞにはたくさんの種類があります。

**3.　ｼﾞｬﾑﾗｲﾅｰ内 の、ｸﾗｯﾁ の ﾛｯｸ解除と、移動**

①　作業の概略

ｼﾞｬﾑﾗｲﾅｰを取外す前に、慎重にｸﾗｯﾁのﾛｯｸを**解除**すると

同時に、これを**解除状態のまま、**上部へ移動させます。

**注意!!**　ｸﾗｯﾁは、ﾅｲﾛﾝｺｰﾄﾞでｺｲﾙｽﾌﾟﾘﾝｸﾞに繋がっており、

このｺｲﾙｽﾌﾟﾘﾝｸﾞが、常に、上方に向かってｸﾗｯﾁを

強い力で引き上げています。

ただし、ｼﾞｬﾑﾗｲﾅｰの溝内のｸﾗｯﾁが、ｼﾞｬﾑﾗｲﾅｰにﾛｯｸ

されると、ｸﾗｯﾁはその位置で固定されます。

 　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 画像　3

しかし、ﾛｯｸが解除されると同時に、上方への　　　（**必ず両手で水平に**）

急激な引き上げ力が働きます。

警告　!! !! 　 この作業での重要なﾎﾟｲﾝﾄ

ﾏｲﾅｽ ﾄﾞﾗｲﾊﾞｰを両手で水平にしっかりと持ち、ﾄﾞﾗｲﾊﾞｰの刃先が外れないよう保持しながら溝に沿って少し押し下げ、ﾛｯｸを解除します。

②**実際　の　作業手順　（重要!! 　慎重に）**

**ﾏｲﾅｽﾄﾞﾗｲﾊﾞｰ**の刃先を**縦**にして、ｸﾗｯﾁの**金属ﾂﾒ**の、**屋外側**に当て、**両手で**

**しっかりと**ﾏｲﾅｽﾄﾞﾗｲﾊﾞｰを**水平**に保持します。　水平状態を維持しながら、

ゆっくりとﾏｲﾅｽ ﾄﾞﾗｲﾊﾞｰの**刃先**を押し下げ、**金属ﾂﾒの先**を、**上方に向かせ**て**ﾛｯｸ**

を外し、**そのまま**、今度は**ゆっくり**と、**引き上げる力**のままに、**上方**の、

金属ｹｰｽ(ﾊﾞﾗﾝｻｰ)の**下端まで移動**させ、そこで作業を終えます。

左右の4箇所のｸﾗｯﾁを、同様にして最上部に移動します。（　画像　3　参照　）



**4.**　**ｼﾞｬﾑﾗｲﾅｰ の 取り外し**ｼﾞｬﾑﾗｲﾅｰ

　　 ①　ｼﾞｬﾑﾗｲﾅｰの室内側下端、木製縦枠との隙間に、刃先50ﾐﾘ程度の

ｽｸﾚｰﾊﾟｰを差込み、こねて浮かせ、ｽｸﾚｰﾊﾟｰを徐々に上方に滑らせ

ながら、ｼﾞｬﾑﾗｲﾅｰのﾂﾊﾞを木部から外します。（ 画像4参照　）

注意!!　 更に旧型のｼﾞｬﾑﾗｲﾅｰの場合は、裏側で3箇所程度、

ｼﾞｬﾑﾗｲﾅｰを金属ｸﾘｯﾌﾟで固定してあります。

この場合も、この金属ｸﾘｯﾌﾟ部分を探し、この金属ｸﾘｯﾌﾟ

部分をｽｸﾚｰﾊﾟｰでこねあげてｼﾞｬﾑﾗｲﾅｰを外します。 　画像4

ｼﾞｬﾑﾗｲﾅｰのつば部分が一部変形、破損した場合は、再設置する金属

ｸﾘｯﾌﾟの取り付け位置を、若干移動して対応します。

**5.**　ｼﾞｬﾑﾗｲﾅｰが浮き上がり、指先がｼﾞｬﾑﾗｲﾅｰに掛かるようになったら、両手でｼﾞｬﾑﾗｲﾅｰを

ひねるように持ち上げ、次いでこれを下方に引いて外します。　室内側の木製縦枠を

損傷させないように、充分、注意します。

**6.**　 新しいﾊﾞﾗﾝｽﾁｭｰﾌﾞや、ｸﾗｯﾁを交換する場合は、それぞれの、元の設置位置や向きを

　　 既存のｼﾞｬﾑﾗｲﾅｰに鉛筆で記録しておきます。

①　ｼﾞｬﾑﾗｲﾅｰ先端の、ｽﾎﾟﾝｼﾞﾊﾟｯﾄﾞとﾌﾟﾗｽﾁｯｸ　ｻｯｼｽﾄｯﾌﾟを取外します。

ﾊﾞﾗﾝｽﾁｭｰﾌﾞをｼﾞｬﾑﾗｲﾅｰの溝から引き抜きます。（　画像　5　参照　）



　　　　　　　　　　　　　　　　　　画像　5

　　　　　　　　　　　　　　　　　ｽﾎﾟﾝｼﾞ ﾊﾟｯﾄ

　　　　　　　　　　　　　　　　　ｻｯｼ ｽﾄｯﾌﾟ

　　　　　　　　　　　　　　　　　ﾊﾞﾗﾝｽ ﾁｭｰﾌﾞ

　　　　　　　　　　　　　　　　　ｸﾗｯﾁ

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　ｼﾞｬﾑﾗｲﾅｰ

**7.　新しいﾊﾞﾗﾝｽﾁｭｰﾌﾞとｸﾗｯﾁ の 取付け**

新しいﾊﾞﾗﾝｽﾁｭｰﾌﾞや、ｸﾗｯﾁを交換する場合は、それぞれの、元の設置位置や向きを

　　 既存のｼﾞｬﾑﾗｲﾅｰに記録しておいて、それらと、全く同じに取り付けます。

注意!!

① ﾊﾞﾗﾝｽﾁｭｰﾌﾞと一体の、ｸﾗｯﾁの金属つめ先端は、必ず室内側に向きます。

（　画像　6　参照　）　　注意!!

　　　　　　　　　　　　　　　　　 ② ﾊﾞﾗﾝｽﾁｭｰﾌﾞの短い掛けﾌｯｸは、ﾄｯﾌﾟｻｯｼ用です。

長い引っ掛けﾌｯｸは、ﾎﾞﾄﾑｻｯｼ用です。

**屋外側**　　　　　　　**室内側**　　　**8.**　ｼﾞｬﾑﾗｲﾅｰを縦枠に取り付けます。

　　　　　　　　　　　　　　　　　 ①　ｼﾞｬﾑﾗｲﾅｰの**屋外寄りのﾂﾊﾞ**を、先にｱﾙﾐ枠へ

**金属つめの先端** 　 押し込みます。　この際、表側の柔らかい

　　　　　　　　　 塩ビ樹脂のﾂﾊﾞは、必ずそのｱﾙﾐ枠にかぶる

ように、表に出します。（画像　6　参照）

**柔らかい**　　　　　　　　　　　　　**ﾋﾝﾄ!!**

**塩ビ樹脂**　　　　ｸﾗｯﾁ ②　**室内側**の、ｼﾞｬﾑﾗｲﾅｰの**小さなﾂﾊﾞ**は、ｽｸﾚｰﾊﾟｰ

**ﾂﾊﾞ**　　　　　　　　　　　　　　　　　 をｶﾞｲﾄﾞにして、下端からこねて木製縦枠の

　　　　　　**画像　6**　　　　　　　　　 溝に押し込みます。

**8.　交換する新しいｸﾗｯﾁ の 位置の設定**

**警告!!**　 この作業には**危険が伴い**ます。　必ず**防護ﾒｶﾞﾈ**を着用してください。

 ①　**最初**に、**ﾄｯﾌﾟｻｯｼ の ｸﾗｯﾁ位置**を決めます。（ｼﾞｬﾑﾗｲﾅｰの屋外側、左右各1か所）

ﾏｲﾅｽ ﾄﾞﾗｲﾊﾞｰを両手でしっかりと水平に持ち、ﾄﾞﾗｲﾊﾞｰの刃先を、ｸﾗｯﾁの金属ﾂﾒに当て、窓の敷居から25ｾﾝﾁくらいの高さまで引き下ろします。

（左右の高さは、それぞれ、ほぼ等しい高さにします。）

②　重要!!　この位置で一度、ｸﾗｯﾁをﾛｯｸします。

ﾛｯｸするためには、ﾏｲﾅｽﾄﾞﾗｲﾊﾞｰの刃先を、手前に回転させて、平らに

して押さえつけ、ｸﾗｯﾁの金属ﾂﾒの先端が、ｼﾞｬﾑﾗｲﾅｰに刺さるように

します。　ﾛｯｸが**確認できたら**、ﾄﾞﾗｵﾊﾞｰを外します。（　画像　7　参照　）

重要!!　 　**後段の作業手順**としては、左右のｸﾗｯﾁの高さを同じにするため、

ｻｯｼを取り付けた時に、一度必ず、ｻｯｼを下方に押し下げます。



屋外側　　　　　　　　　　　　　　　　室内側

　　ﾛｯｸ状態　　　　　　　　　　　　　　　　　　　ﾛｯｸ解除の状態

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　金属ﾂﾒ先端方向

　　　　　　　　　　　　　　　　　画像　7

　危険!!　警告!!　 　ｸﾗｯﾁの**金属ﾂﾒ**が、**ﾛｯｸ状態とならないうち**に、**ﾏｲﾅｽﾄﾞﾗｲﾊﾞｰ**の力を

**抜く**と、ｸﾗｯﾁが**跳ね上がって**、ﾊﾞﾗﾝｽﾁｭｰﾌﾞの**下端に激突**し、

**大変危険**です。

**9.　ﾄｯﾌﾟｻｯｼを先に取り付けます。**

①　先に使ったつっぱり棒を、前回と同様な位置に入れて、水平につっぱらせます。

②　ﾄｯﾌﾟｻｯｼの左右中央を、両手で水平に持ってから、片方を少し持ち上げて、取り

付け位置に合わせ、ｻｯｼ下方の、左右いずれかの**ﾋﾞﾎﾞｯﾄﾋﾟﾝ**を先に、ｸﾗｯﾁの**金属**

**ﾂﾒ**に載せます。　　次いで、反対側を下げて、同様にｸﾗｯﾁの金属ﾂﾒに載せます。

③　水平に保持したｻｯｼの**先端を浮かせない**よう、片手を伸ばして**これを押し付け**

**気味**にしながら、もう一方の手で、手前のｻｯｼ上辺を屋外に向かって立て起こし

ます。

**注意!!**　　この時、水平のつっぱり棒の設置位置が、低いようでしたら、少し高く、

又、高いようでしたら、下方へ引き下げて調整します。

④　ｻｯｼの上辺が、つっぱり棒でつっぱったｼﾞｬﾑﾗｲﾅｰの間に入りそうでしたら、その

まま、強く押し込んで設置します。

　　　注意!!　　ｻｯｼのｶﾞﾗｽ面を押してはいけません。　ｶﾞﾗｽ割れの恐れがあります。

⑤　ｻｯｼが定位置に納まったら、ｻｯｼを下方に軽く押し下げます。

ﾋﾝﾄ!!　　 この操作により、ｻｯｼ下端に取り付けられているﾋﾞﾎﾞｯﾄﾋﾟﾝが、ｸﾗｯﾁの爪の

向きを上向き、ﾛｯｸ解除とし、ｸﾗｯﾁのﾛｯｸが外れ、ｻｯｼが自由に上下する

ようになります。

⑥　ﾄｯﾌﾟｻｯｼを上方に10ｾﾝﾁほど上げ、下方から覗き込んで見て、左右のｼﾞｬﾑﾗｲﾅｰの

溝の中に、ｸﾗｯﾁが残っていないことを確認します。（正規にｾｯﾄされたことを）

⑦　ｼﾞｬﾑﾗｲﾅｰ溝の中が荒れていて、ｸﾗｯﾁが動きづらく、取り残されるようであれば、

溝の中やｸﾗｯﾁに、ｼﾘｺﾝｽﾌﾟﾚｰを吹きかけて動きを良くします。

**10.　ﾎﾞﾄﾑｻｯｼ用ｸﾗｯﾁ の、 位置設定**

**警告!!**　 この作業には**危険が伴い**ます。　必ず**防護ﾒｶﾞﾈ**を着用してください。

①　室内側の左右ｼﾞｬﾑﾗｲﾅｰのｸﾗｯﾁを、下方から100ﾐﾘ程の高さまで引き下げて、ﾛｯｸ

します。

　　　②　この作業は、先のﾄｯﾌﾟｻｯｼのためのｸﾗｯﾁの位置決めと同様に、危険が伴います。

安全を最優先に作業を行ってください。

**11.　ﾎﾞﾄﾑｻｯｼの取付け**

　　　①　**9.　ﾄｯﾌﾟｻｯｼの取付け**手順に準じて作業を行います。

**12.　ｻｯｼの取付け状態の確認　　　開閉操作時のコツ**

①　各ｻｯｼの上下動、ﾛｯｸの掛かり具合、ｻｯｼと周囲窓枠との隙間の均等度合、

　　　　　異音の発生、既存気密材の劣化の有無などを、確認します。

　　　②　窓のこすれ合う部分への潤滑ｽﾌﾟﾚｰの吹付は、開閉操作力の軽減、異音の解消に、

大きな効果があります。

③　尚、ﾀﾞﾌﾞﾙﾊﾝｸﾞ窓の場合は、できるだけ窓の近くに立ち、壁に両膝頭を当て、

体重を少し壁に預ける感覚で、背筋を伸ばして開閉操作をする事がコツです。

及び腰ですと、掛ける力が逃げがちとなり、有効となりません。

又、上部ｻｯｼを上げて閉める時は、腰の側面を壁に当てて真っ直ぐに立ち、

肩入れ気味に上げる事で、どなたにも無理なく閉める事ができます。3/5/2016